

一般社団法人 旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

2022年度

合同成果発表会抄録集



令和5年1月22日(日)

イラスト：@いらすとや

VAB

目 次

NO	演 題 ・ 所 属 ・ 氏 名	頁
1	旭川市デジタル化推進の現状分析と改善提案 旭川大学経済学部 黒川ゼミナール 責任者:3年 本多 寿樹、 浅野 駿一、井澤 葵、加納 光、高松 治斗、薦原 愛奈、松田 瑠奈、 宮崎 祐伍、2年 麻木 洸星、鹿又 裕真、曾根 大輝、杜方周、 中村 康太郎、方毅	6
2	高分子キラルセンサを活用した D-アミノ酸の特異的比色センシング 旭川工業高等専門学校 応用化学専攻1年 石丸 北都	6
3	学生フォーミュラプロジェクトの紹介 旭川工業高等専門学校 機械システム工学科5年 松田 祐輝、 惣田 和馬、福井 光穂	7
4	上川地域のおいしいお米を守るとともに水害被害を低減するシステムの開発 旭川工業高等専門学校 システム制御情報工学科2年 配島 海音 機械システム工学科 5年 後藤 峻、鈴木 真心、中村 宙生、吉田 匠	7
5	「AYA 世代医療について」 旭川医科大学 AYAship in AMU 部員一同 代表 医学科2年 松村 怜奈	7
6	住宅地域と農村地域に居住する高齢者の身体状態・認知機能の特徴と関連要因の比較 ～地域特性に合わせた介護予防プログラム提供に向けて～ 旭川医科大学医学部看護学科4年 伊達 あまの、古瀬 もも	8

7	<p>医学系大学生の HPV ワクチンについての知識と将来的に啓発する意志の関連</p> <p>旭川医科大学医学部看護学科4年 麻生 ゆきの、楯 典子</p>	8
8	<p>看護者側のメンタルヘルスから見たひめゆり学徒隊についての文献検討</p> <p>旭川医科大学医学部看護学科4年 宮崎 奈月、山本 真生</p>	9
9	<p>体育授業における e スポーツ活用の可能性</p> <p>北海道教育大学旭川校 保健体育分野3年 三浦 弘人</p>	9
10	<p>凍結路面上歩行における転倒予防戦略</p> <p>北海道教育大学旭川校 保健体育分野3年 運動学ゼミナール 加藤 章太, 上野 壮士朗, 石川 修</p>	9
11	<p>温熱蒸気マスク着用は寒冷環境下における運動後の肺機能を改善させるか</p> <p>北海道教育大学旭川校 保健体育分野3年 生理学ゼミナール 秀島 康生、尾野 智彌、仙北 真悠、中西 麻実</p>	10

北海道旭川西高等学校2年生

NO	演 題 ・ 所 属 ・ 氏 名	頁
12	<p style="color: blue;">嬉しー！楽しー！宝探しー！</p> <p style="text-align: center;">布野 ひより、今多 思温、赤田 順正、堤 和音、松倉 亜弥</p>	11
13	<p style="color: blue;">私たちのあとびあ計画！</p> <p style="text-align: center;">後藤 愛唯、本間 光夢、大田原 光綺、中嶋 駿太、松川 陽奈、 神尾 颯志</p>	11
14	<p style="color: blue;">暗記は苦じゃない！？ゲームで歴史を勉強しよう大作戦！！</p> <p style="text-align: center;">藪 庵梨、奥山 直樹、堀 百々香、花田 隆聖、上野 大和</p>	11
15	<p style="color: blue;">まるで魔法!?つかめる消毒液</p> <p style="text-align: center;">嶋津 帆夏、赤羽 海飛、唯野 大翔、小林 洸輝、日比生 紬、戸田 侑弥</p>	12
16	<p style="color: blue;">松ぼっくりは次世代の木炭になるのか！？</p> <p style="text-align: center;">林 明日翔、白鳥 陽樹、福田 真斗、菅沼 侑平</p>	12
17	<p style="color: blue;">酒粕はカスじゃない！ ～第2弾～</p> <p style="text-align: center;">中田 来愛、島田 大翔、笹森 心杏、小田桐 雛</p>	12
18	<p style="color: blue;">目指せ！爆買い大作戦！</p> <p style="text-align: center;">高橋 唯花、須藤 愛、沓村 妃夏、川瀬 心奈、成田 青空 平山 乃々果</p>	13

19	<p>スカートは女子のもの？～固定観念を変えるには～</p> <p>岸本 来夢、富永 颯太郎、本間 愛、土手 恋詠</p>	13
20	<p>Let's make 香水 ～みんな一緒にSDGs！～</p> <p>山田 菜央、芦野 心優、西脇 ゆい、池田 莉奈</p>	13
21	<p>割れにくいシャボン玉をつくろう！</p> <p>浅田 実希、中村 桃華、小林 由依、杉尾 雪華、千葉 暖花</p>	14
22	<p>そのマスク、あなたの顔に合いますか？※合いますか</p> <p>小山 慧・稲川 彩恵・中野 真心・川辺 暖々花</p>	14
23	<p>制服満足度up研究～あなたの高校生活に彩りを！～</p> <p>木地谷 陽奈、板垣 果歩、高橋 蒼梨、角地 楓菜、袖澗 彩音、 宮崎 由羽</p>	14
24	<p>日焼け止めを使って変色しない紙を作ろう！</p> <p>坂井 響生、木村 匠汰、十文字 史桜、舟山 瑛太郎</p>	15
25	<p>[SSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)全国発表研究]</p> <p>クマの舌の長さに着目した新たな行動展示とクマの苦手な匂いの研究</p> <p>奥山 ほのか、遠藤 さえ、木原 歩優、中川 和哉、小野 叶夢</p>	15

演 題

1. 旭川市デジタル化推進の現状分析と改善提案

所 属：旭川大学経済学部

氏 名：黒川ゼミナール 責任者：3年 本多 寿樹、

浅野 駿一、井澤 葵、加納 光、高松 治斗、蔦原 愛奈、
松田 瑠奈、宮崎 祐伍、2年 麻木 洸星、鹿又 裕真、曾根 大輝、
杜方周、中村 康太郎、方毅

現在、政府はデジタル化による地域活性化を目指している(デジタル田園都市国家構想)。本報告は同構想の「誰一人取り残されないため」という目標に焦点を当て、旭川市が直面する高齢化の現状と課題を基礎としながら、今後のデジタル推進の方向性を提言する。高齢化の進展による課題には多様なものがあるが、「孤独」の蔓延は深刻な問題である。そこで、デジタル化が、失われつつある地域コミュニティの代替を果たす方途を探る。

2. 高分子キラルセンサを活用した D-アミノ酸の特異的比色センシング

所 属：旭川工業高等専門学校 応用化学専攻1年

氏 名：石丸 北都

生体はL-アミノ酸のみを利用し、D-アミノ酸は無用なものと考えられてきた。しかし現在 D-アミノ酸が生体内に存在し、様々な疾病におけるバイオマーカーになり得ることが見いだされている。従って、今日、迅速かつ簡便に多検体のスクリーニングが可能なD-アミノ酸比色分析の実現が強く求められている。本研究ではこの様な分析法を提供するために、D-アミノ酸に対して特異的な紫色への色調変化を示す比色センサを創製した。

3. 学生フォーミュラプロジェクトの紹介

所 属：旭川工業高等専門学校 機械システム工学科5年
氏 名：松田 祐輝, 惣田 和馬, 福井 光穂

旭川高専では2023年度の学生フォーミュラ大会出場に向け車両製作に取り組んでいます。学生フォーミュラとは学生自らが資金集めからコンセプト提案、設計、車両製作をおこない作ったレースマシンで競い合う、「自動車技術会」が主催するレースです。ただ車を造るだけではなく、新しい材料技術・設計技術の研究・開発も進めています。日本最北のレースチーム、旭川高専学生フォーミュラチームの応援をよろしく願います。

4. 上川地域のおいしいお米を守るとともに水害被害を低減するシステムの開発

所 属：旭川工業高等専門学校
氏 名：システム制御情報工学科2年 配島 海音
機械システム工学科 5年 後藤 峻、鈴木 真心、中村 宙生、
吉田 匠

高齢化・後継者不足により、上川地域の水稲農業は衰退傾向にある。また、近年は台風の増加などで、田んぼに降った雨がその面積分、河川に流れ出し、下流域で氾濫を起こす水害被害が起きている。そこで、水稲農業で手間のかかる水管理を自動化するとともに、豪雨時には田んぼを緊急貯水池とするシステムを開発し、豊かな上川地域を守っていく。

5. 「AYA 世代医療について」

所 属：旭川医科大学
氏 名：AYAship in AMU 部員一同 代表 医学科2年 松村 怜奈

AYAship の AYA とはなにか、みなさんはご存じですか。AYA は Adolescents and Young Adults の頭文字をとったもので、主に思春期から 30 歳代のことをさします。AYAship in AMU はこの AYA 世代の医療について考え、みなさんにその現状を広く知ってもらいたいと考え、まちなかキャンパスでのデジタル紙芝居などの活動をしています。AYA 世代のがん治療には、長期入院による社会生活からの離脱、妊孕性喪失のリスク、治療による自己像の変化、将来への夢や希望が突然断たれるなど多様な医療的・心理社会的ニーズがあります。これらへのサポートとして、ピアサポートや健康な同世代との交流、他職種連携、長期フォローアップ、情報へのアクセシビリティの向上が必要と考える。

6. 住宅地域と農村地域に居住する高齢者の身体状態・認知機能の特徴と関連要因の比較 ～地域特性に合わせた介護予防プログラム提供に向けて～

所 属：旭川医科大学医学部看護学科4年

氏 名：伊達 あまの、古瀬 もも

住宅地域と農村地域に居住する65歳以上高齢者の身体的・認知的特徴の関連要因を明らかにするために、老人クラブに所属する住宅地域46名と農村地域56名を対象に調査を行った。【方法】測定はIn body、握力、血圧、語想起、質問紙は基本属性と現病歴、食事、喫煙、飲酒、外出、主観的健康感等とし、統計解析により分析を行った。【結果と考察】農村地域は住宅地域に比べ体脂肪率と肥満度が高い傾向がみられた。しかし、運動習慣は農村地域のほうが多く行われていた。食事回数や間食有無に差はなく、身体・認知機能にも差はみられなかった。住宅地域は外出頻度が高く、農村地域は運動習慣が多く、身体機能維持の諸条件が拮抗し差が出なかったと推察する。また、老人クラブの高齢者は社会とつながりがある人が多かった。

7. 医学系大学生のHPVワクチンについての知識と将来的に啓発する意志の関連

所 属：旭川医科大学医学部看護学科4年

氏 名：麻生 ゆきの、楯 典子

HPVワクチンや子宮頸がんについて将来知識提供者となる医学系大学生に、HPVワクチンの知識と将来的な啓発意志との関連性を明らかにする。【方法】対象はA大学医学部医学科2～4学年373名とし、2022年6月Googleフォームで無記名自記式調査票調査を実施した。調査内容は①基本属性、②HPVワクチンの知識、③知識を得た機会、④接種有無と理由、⑤ワクチン啓発意志等とした。分析方法は②を高得点・低得点群に分けIBM SPSS (Ver.26)で χ^2 検定、3群間の比較はクリスカルウォリス検定を用いた($p < 0.05$)。【結果と考察】179名に配付し90名回答(回収率50.3%)、有効回答87名(有効回答率96.7%)であった。医学系大学生の約7割が将来的に啓発する意志がみられた。キャッチアップ接種希望者とHPVワクチン接種者に将来的に啓発意志がない者はいなかったことから、接種者を増やすことで将来的に啓発意志がある者は増える可能性が示唆された。

8. 看護師側のメンタルヘルスから見たひめゆり学徒隊についての文献検討

所 属：旭川医科大学医学部看護学科4年
氏 名：宮崎 奈月、山本 真生

第二次世界大戦の沖縄戦のひめゆり学徒隊を取り巻く状況や環境、どのようなメンタルヘルスで看護活動をしていたのかを検討する。【方法】ひめゆり平和祈念資料館に紹介を受けた文献のうち4文献を対象とし質的記述的に分析した。【結果と考察】(A)学徒隊を取り巻く状況や環境6カテゴリ、(B)戦時下特有の学徒の精神状態9カテゴリ、(C)学徒の率直な思い9カテゴリを抽出した。事実の伝承だけでなく、戦争体験者の精神状態や率直な思いに焦点を当てることで、かれらの思いや平和への願いを未来へ引き継ぐことにつながる。そして、戦争という悲惨な出来事を二度と繰り返さないようにすることが私たちの役割と考える。

9. 体育授業におけるeスポーツ活用の可能性

所 属：北海道教育大学旭川校 保健体育分野3年
氏 名：三浦 弘人

近年、eスポーツの盛隆に伴いeスポーツを学習ツールや部活動などの学校教育の現場に導入する動きが見られる。その一方で、eスポーツが「スポーツ」としての側面を持つにも関わらず、体育授業における活用事例は見られない。そこで、本研究では、eスポーツと体育の体験を通して、両者に共通する点及びそれぞれが持つ固有の価値を探り、体育授業におけるeスポーツ活用の可能性を見出すことを目的とする。

10. 凍結路面上歩行における転倒予防戦略

所 属：北海道教育大学旭川校 保健体育分野3年 運動学ゼミナール
氏 名：加藤 章太、上野 壮士朗、石川 修

凍結した路面は非常に滑りやすい。しかし、旭川市のような積雪寒冷地の住民が滑って転倒するのを目にする機会は少ない。これは、積雪寒冷地の住民は冬の路面を歩行時、転倒を予防する歩き方をしているためだと考えられる。

本研究は、積雪寒冷地の住民の凍結路面上を歩行する際の転倒予防戦略を明らかにすることを目的とした。このために、積雪寒冷地出身者と非積雪寒冷地出身者の屋内と氷上の歩行を動作解析し、比較した。

11. 温熱蒸気マスク着用は寒冷環境下における運動後の肺機能を改善させるか

所 属：北海道教育大学旭川校 保健体育分野3年 生理学ゼミナール
氏 名：秀島 康生、尾野 智彌、仙北 真悠、中西 麻実

北海道のような積雪寒冷地域では、冬季の体育授業などの運動を寒冷低湿度環境下で行わなければならない。このような環境の運動時には呼吸増加による気道での熱損失が増加し、気管支炎症が起こる場合がある。本研究では、冬季の屋内運動でも気管支収縮が生じるかに加え、温熱蒸気マスク着用が運動後の肺機能を改善させるか検討することを目的とした。

演 題

[北海道旭川西高等学校 普通科 2 年生]

12. 嬉しー！ 楽しー！ 宝探しー！

氏 名： 布野 ひより、今多 思温、赤田 順正、堤 和音、松倉 亜弥

私達は現代の子供達の認識が遊び＝ゲームになっていることを知り、宝探しを通して、自発的に動く遊びのいいところを見つけたい！と思いました。そこで実際に幼稚園に行き、発達が高まるだけでなく、社会に通じるたくさんのお話をゲームではない遊びの中から得ていることがわかりました。なので、ゲームより、体を動かして自然に触れて遊ぶほうが子供たちの発達や成長につながる。

13. 私たちのはあとびあ計画！

氏 名： 後藤 愛唯、本間 光夢、大田原 光綺、中嶋 駿太、松川 陽奈
神尾 颯志

「殺処分」をテーマに仮説を立て、探究活動を始めた私たちは、すでに旭川市で殺処分 0 が達成できているという事実を知りました。そこで私たちは、あにまあるや NPO 法人『手と手の森』でのインタビュー調査を経て、改めてテーマを見直し、「ペットと人間の共生」を実現する方法を考えました。あにまあるや『手と手の森』の活動をベースに、さらに新しい取り組みをプラスすることで、ペットも人間を互いに幸せになれる「はあとびあ」計画を提案します。

14. 暗記は苦じゃない！？ゲームで歴史を勉強しよう 大作戦！！

氏 名： 藪 庵梨、奥山 直樹、堀 百々香、花田 隆聖、上野 大和

私たちは、楽しく効果的に学習する方法はあるのかというテーマで研究を行った。独自に作成した歴史カードゲームを使用して学習するチームと、カードゲームを使用せずに自習してもらうチームの 2 つに別れてもらい、実験前と実験後にテストを受験してもらった。点数を集計すると、カードゲームを使用したチームの方が獲得点数が個人、平均ともに高いという結果となった。

15. まるで魔法!?つかめる消毒液

氏名：嶋津 帆夏、赤羽 海飛、唯野 大翔、小林 洸輝、日比生 紬、
戸田 侑弥

コロナ禍で消毒を自主的に行うために考えついたのが「つかめる消毒液」だ。実験キットで売られている「つかめる水」の中身を消毒液に変えることで「つかめる消毒液」が出来ると仮説を立てた。アルギン酸水溶液を塩化カルシウム水溶液に入れることで「つかめる水」が出来ることが先行研究でわかっている。アルギン酸ナトリウムと消毒液を混ぜたものを製氷器で凍らせ、カルシウム水溶液に入れることで現段階で最も完成度の高いものを作成できた。実際に使用した結果見た目は好評だが機能面では問題点が多々あるため、解決することが今後の課題となっている。

16. 松ぼっくりは次世代の木炭になるのか！？

氏名：林 明日翔、白鳥 陽樹、福田 真斗、菅沼 侑平

私たちは、木炭の代わりに松ぼっくりで作った炭を使用することで、木の伐採量を減らすことができるのではないかと考え、また、それが二酸化炭素の削減につながるのではないかと考え、松ぼっくりの炭は木炭の代わりになるという仮説を立てた。そこで、ハイマツ、ヨーロッパクロマツ、ヨーロッパアカマツ、市販の木炭の4種類を燃やし、それらの熱量、時間などを比較したところ、市販の木炭と松ぼっくりに大きな差はなかったため、松ぼっくりは木炭の代わりになるとわかった。

17. 酒粕はカスじゃない！ ～第2弾～

氏名：中田 来愛、島田 大翔、笹森 心杏、小田桐 雛

酒粕の廃棄量を減らすという活動はSNSでの情報発信やリーフレット効果によって一部の人には需要があり、酒粕は色々なスイーツ作りに応用できることが昨年の研究で明らかになった。そこで私たちはこの活動をより多くの人に知ってもらい、廃棄量削減に繋がれるように商品化や企業との連携を中心に活動を進めた。結果、地域のイベントでの商品化に成功し子供からお年寄りまで幅広い年代の方々に手に取ってもらうことができ、酒粕スイーツは商品としての価値があり酒粕に興味・関心を持つきっかけとなることができると考える。今後の展開として継続的な商品化、様々な企業とのコラボ商品を実現することによって酒粕の廃棄量をゼロに近づけていきたい。

18. 目指せ！爆買い大作戦！

氏名：高橋 唯花、須藤 愛、沓村 妃夏、川瀬 心奈、成田 青空、
平山 乃々果

私たちは、心理的効果を活用し、購買意欲を向上させることを目的として研究を行った。仮説として、使われているのをよく見かけるとい理由から、バンドワゴン効果が最も効果的だと考えた。バンドワゴン効果とは、みんなが持っている自分も欲しくなるという効果だ。

仮説を検証するために、心理的効果を用いたキャッチコピーとポップを複数作成し、街頭でのアンケート調査やお店での売上の変化を比較した調査を行った。その結果、「期間限定」などに使われている、希少性や特別感に惹かれるというスノッブ効果が最も効果的だと分かった。よって、購買意欲を上げるにはスノッブ効果を使うと良い。

19. スカートは女子のもの？

～固定観念を変えるには～

氏名：岸本 来夢、富永 颯太郎、本間 愛、土手 恋詠

私達は近年ジェンダーレスな考え方が広まっているにも関わらず、女子はスカート、男子はスラックスという固定観念は変化していないことに着目した。そこで固定観念を変えるべく、男子にスカート、女子にスラックスを実際に着用してもらったところ、予想に反し、普段着用しないスカート・スラックスに対して肯定的な意見が多く挙がった。また文献調査から民族的な衣装や普段着などで、男性がスカートを着用する事例がかなり多いことが分かった。これらから、実際に着用する機会を増やしたり、ジェンダーレスな取り組みを広めていくことで、固定観念を変えることができると思う。

20. Let's make 香水 ～みんな一緒に SDGs！～

氏名：山田 菜央、芦野 心優、西脇 ゆい、池田 莉奈

私たちは好きな匂いの香水を自分達で作れないかと考えた。まず、水蒸気蒸留法という比較的簡単な方法で精油を作った。SDGsと関連させ、食料廃棄物やロスフラワー、野草を原料として使った。完成した精油にホホバオイルを混ぜ香水(香油)にした。野草やロスフラワーを使った場合にはどれも豊のような匂いとなった。食料廃棄物(果物の皮)を使った場合にはどれも比較的原料と変わらない匂いとなった。香りは維持できるが匂いが、薄い印象があるので精油とホホバオイルの比率は工夫するべきという結果になった。好きな匂いの香水を作るのは難しかった。

21. 割れにくいシャボン玉をつくろう！

氏名： 浅田 実希、中村 桃華、小林 由依、杉尾 雪華、千葉 暖花

私達はなぜシャボン玉はすぐに割れてしまうのだろう、割れにくくする方法はないのだろうかと疑問を持ち探究をしています。インターネットで見つけた「水 16:洗濯糊 4:洗剤 2:グリセリン 1」という比率をもとに実験を行いました。液の成分のうち洗濯糊とグリセリンに着目し、「水 16:洗濯糊:11 洗剤 2:グリセリン 12」という最も割れにくい比率を見つけ出しました。今回の実験で、割れ方に違いが見られたので今後調べていきたいです。

22. そのマスク、あなたの顔に合いますく？

※合いますか

氏名： 小山 慧、稲川 彩恵、中野 真心、川辺 暖々花

コロナ禍でマスクが当たり前となった今、自分の顔に合ったマスクの色を知りたいと考え、マスクの色を変えることで印象作用に繋がるのかという探究を始めた。マスクの色に関するアンケートを実施した結果、印象の良いマスクが、年齢や性別を変えることによって悪くも見られることが分かった。

この結果から、自分に合うマスクの色を簡単に調べるためにマスクフローチャートを作成し、これを不特定多数の人に活用してもらいたい。

23. 制服満足度up研究

～あなたの高校生活に彩りを！～

氏名： 木地谷 陽奈、板垣 果歩、高橋 蒼梨、角地 楓菜、袖澗 彩音、
宮崎 由羽

私達は西高の水色ベストと夏用の水色スカートの着用している人が少ないという点に着目し、どうすれば着用率が上がるのか研究を開始した。制服の販売業者に取材をした所今年の水色のスカートはほとんど売れず、持っている人が少ないということが分かりベストは約半数の人が買っている事がわかった。この2つを踏まえてなぜスカートとベストを着ないのか生徒アンケートを取ったところどちらも『色』に問題があり水色だと着用しにくいという事がわかった。そこで私達は制服アイテムを取り扱っているアパレルショップでのインタビューで得ることが出来た、紺・白が学生に人気の色であるという結果から西高の水色ベストと夏用スカートの新たな制服を提案する事にした。

24. 日焼け止めを使って変色しない紙を作ろう！

氏名：坂井 響生、木村 匠汰、十文字 史桜、舟山 瑛太郎

私たちは図書館や窓際に置いてある古い本や新聞紙が変色していることに気がついた。調べると、紫外線と紙に含まれるリグニンと呼ばれる化合物が原因であることが分かった。そこから、紙が従来より長期的に変色しないためには普段肌を用いる日焼け止めが紙にも効果があると考えた。そこで日焼け止めを紙の表面に直接塗るものと紙を一から作り日焼け止めを混ぜ込むものの両方に紫外線ライトを当てる実験を行い、それらの実験から日焼け止め自体の色が紙に移ってしまったという結果と無加工の紙に変色が見られなかったという結果が得られた。今後は実験の期間を延ばし日焼け止め自体の色を消す方法を考えていきたい。

SSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)

[全国発表研究]

[北海道旭川西高等学校 理数科2年生]

25 クマの舌の長さに着目した新たな行動展示とクマの苦手な匂いの研究

氏名：奥山 ほのか、遠藤 さえ、木原 歩優、中川 和哉、小野 叶夢

クマの舌の長さに着目した新たな行動展示をするための道具「なかが輪」を作り、中に好物を入れクマが舌を出すかどうかの実験を行った。そして実際にクマが舌を出し食事をする様子が見られた。次に先行研究を参考にクマが苦手であろう匂いの食べ物等を使って実験を行った。その結果、パクチーとカメムシ、ハッカに反応を示した。域の閉じこもり高齢者の把握には地域全体で気にかけていく地域の目を育て、通期の繋がりを強化する事が重要であると考えた。

VAB



一般社団法人 旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

連絡先：旭川市1条通8丁目108 フィール旭川7階

電話：0166-26-0338

URL：<http://www.awbc.jp/>